

▼ フェスタはただみコミュニティークラブが主催



ゲストと一緒に雪をエンジョイ

3月14日・15日湯ら里イベント会場で開かれたフェスタで、雪上バレーボール大会、クロスカントリースプリントレースが繰り広げられました。

8チームが参加したバレー大会にゲストで参加した蔭山弘道さん（ソウル五輪バレーボール出場）は「楽しい。初めての人でもバレーの楽しさがわかり、好きになる。夏のビーチバレーはよく知られていますが、雪上バレー大会が只見発祥のビックイベントになればいいですね」と話していました。

▼ オツネトンボ（写真上）を発見した場所で若林さん（写真下）



只見 冬を越すトンボ オツネトンボ 見の雪の中でもトンボは生きている

3月12日、若林保夫さん（只見）が前日に降った雪を片付けて、水をあげようと植木を見ると、生きたトンボが枝に止まっていました。トンボは九州北部から北海道に生息地している「オツネトンボ」で、冬を越す「越冬」から名前が由来しているそうです。8月頃池で羽化し、成虫のまま木のすき間や落ち葉の下、家の中で越冬します。トンボは若林さんの手で元の場所に戻され、じっと春を待っています。

目 全国小学生アルペンスキー大会 黒郷くん(只見小6年)が優勝



▲ 優勝し表彰台上立つ目黒くん（写真左）

3月24日岩手県安比スキー場で開かれた第3回全国小学生アルペンスキー大会小学6年生男子の部で、目黒郷くんが優勝しました。また目黒くんは、3月20日長野県で開かれたアトミックジュニアカップ本州決勝大会男子大回転でも2位に入賞しています。今年の夏休みはニュージーランドスキーキャンプに参加し、さらに技術を磨くそうです。

直 明和わくわく倶楽部が研修 江兼続ゆかりの史跡めぐり

3月19日、明和地区の高齢者でつくる明和わくわく倶楽部の25人が、直江兼続ゆかりの地山形県米沢市で史跡をめぐり、研修しました。上杉神社を参拝し直江兼続のかぶとの展示を見たり、上杉博物館で「天地人博2009」企画展を見学したりしました。倶楽部は情報交換と親睦を目的に昨年9月に発足。これからも健康的なライフスタイルや生きがいづくりのため、研修会や講習会を開催する予定です。



▲ 愛と義に生きた兼継の足跡をたどった研修

▼ 地域の子どもの笑顔のために力を合わせた



90 明和小学校引っ越し 人のボランティアが大活躍

地域の小学校の引越しまかせる。新しくなった明和小学校への引っ越しが、3月22日に行われ明和地区の老人会、婦人会、小PTA会員ら約90人のボランティアが参加しました。机、椅子、棚などの移動や、物品の整理をしました。この日のための荷造りも多くのボランティアが作業しました。地域と学校と家庭がしっかり手を取り合った、見事な引っ越しでした。

▼ 圓生襲名が期待される実力派、鳳楽師匠



笑 第4回湯ら里寄席 三遊亭鳳楽独演会 いあり、そして人情話にホロリ

春は、湯ら里で寄席を聞くことが恒例という方が増えています。今年の湯ら里寄席は、3月15日に開かれ、約200人が三遊亭鳳楽独演会を楽しみました。演目は「目薬」「半分垢」のこっけい話と、人情話「文七元結」。お腹を抱えて笑った後に、しみりとした人情話を聞いた観衆は、落語の奥深さと鳳楽師匠の円熟の話芸に酔いしれていました。

18 町公認自然ガイドインストラクター養成講座 人に修了証書授与

平成19年7月30日から始まったガイド養成講座の8回目となる最終講義が3月14日、只見地区センターで開かれました。講義修了後、修了証書授与式が行われ、目黒吉久町長から18人一人ひとりに証書が手渡されました。目黒町長はあいさつで「豊富な知識でのガイドはもちろん、自然を生かした都市との交流や、自然と私たちのかかわりあいに道筋をつけてください」と期待を述べました。



▲ 修了生の活躍が楽しみです。

友 保育所で修了式 達を大切に色んなことを学んでね

3月26日、町内の3保育所で修了式が行われました。朝日保育所では、渡部千重子所長から児童19人一人ひとりに保育証書が手渡されました。児童は自分の名前が呼ばれると大きな声で返事をし、元気に受け取っていました。渡部所長は「丈夫な身体、やさしい心で、小学生になっても友達を大切に、色んなことを学んでください」とあいさつしました。



▲ 元気な声で証書をもらう朝日保育所児童